



先日の保護者セミナーの後に、保護者様とお話をする機会をいただきました。その際出て来たことの一つが「読書をしない」というものでした。小学校低学年までは読み聞かせをしたとおっしゃっていました。中学校になるとYouTubeばかりを見ているとのことでした。よく聞くお話です。今や一人一台になってきたスマホですが、いいことばかりではないようです。

では、読書は必要なのか？と問うと、ほぼ全員が必要だと答えるでしょう。本を読む必要性は誰も感じていますが、習慣化していないと難しいですし、読書もそうですが、やれと言ってしまうものではありません。

本を読むことと、スマホ等のビジュアル(映像を視覚的)で見る場合の違いは何でしょうか。視覚的に目に入る場合は完全な受け身ですからイメージが先行します。そういうものののだなあという意識のもとに情報を手に入れます。「おもしろい」「おもしろくない」という言葉が良く聞かれるかと思います。スマホは情報、動画を視聴者を飽きさせない方法で次から次へと出してきました。情報を受ける方は知らないうちに新たな情報をスマホで探すが習慣化してしまっています。一度手に入れた快楽は手放すのは容易なことではありません。

与えられることに慣れきっているとすべての解答を与えられるまで待つという姿勢が生まれてきます。自分で考えて判断する力が弱まわってきますし、本を読まない分、知識もありませんし語彙も知りませんから変な日本語を当たり前のように使い、相手の話が理解出来ないことも生じてきます。年々思いますが高校生、大学生の常識が低下しています。知識を身に付けると初対面の方ともコミュニケーションが取りやすくなります。相手と共通の話題を見つけやすくなります。

読書の良さは、漢字等の語彙力が増えることはもちろんですが、画面がない分、自分で想像したり、考えたりすることが自分のペースで出来るということです。

読書のきっかけは人それぞれであるかとは思いますが。以前、大河ドラマで「竜馬伝」という坂本龍馬を描いた大河ドラマがありました。小学四年生のお子さんがお母さんに「竜馬って何をした人」と尋ねたそうです。お母さまは歴史にあまり興味がなく答えることが出来なかったそうです。そこで漫画を買って与えたところ、その子は夢中になり、読み終えるともう少し詳しいものが読みたいと言ったそうです。そこでお母さんは小学生が読む偉人伝を見つけ、与えたのです。それを読み終えた少年はもう少し詳しいものが読みたいと言って、最後には司馬遼太郎の「竜馬がゆく」を読んでいました。その子はそれがきっかけで歴史に興味を持ち小学生で歴史検定(通常高校生が取得する検定)をとりました。

何事もきっかけが必要です。子供が疑問に思ったときに最大のチャンスです。まずは話を聴き、一緒に調べてみようとか、この本に載っているから一緒に読んでみようとか、アプローチを投げかけることです。ニュース一つを取ってもそれが言えます。一緒に考える姿勢が必要です。例えば、どうして戦争が起こっているのだろうかという話題を投げかけて調べさせるのも良いことかと思えます。ネット情報は合っている場合、間違っている場合がありますから安易に信じることはできないのです。自分で判断しなければならぬはずですが、その判断基準を自分が持っていないから、安易に人の意見に流されていくのです。また、子供は親がしていることを真似ていきます。子供に本を読ませたいと思うならまずは親が本を読む姿勢を示すことが大切です。親がスマホばかりいじっていると同じことが生じることが多いのではないのでしょうか。